

松本地域の概況

地 勢

- 松本地域は、長野県の中央部に位置し、日本の屋根と呼ばれる北アルプスと美ヶ原高原に囲まれた盆地を中心に3市5村からなっている。
- 信州大学、松本歯科大学などの教育機関や信州大学医学部附属病院など高度医療を担う医療機関のほか、松本平広域公園、松本文化会館など多くのスポーツ・文化施設が集積している。

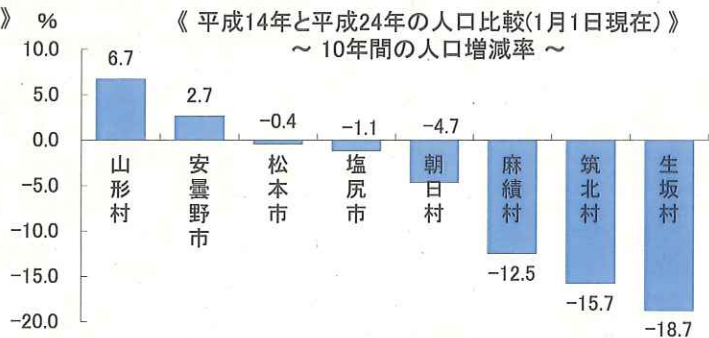
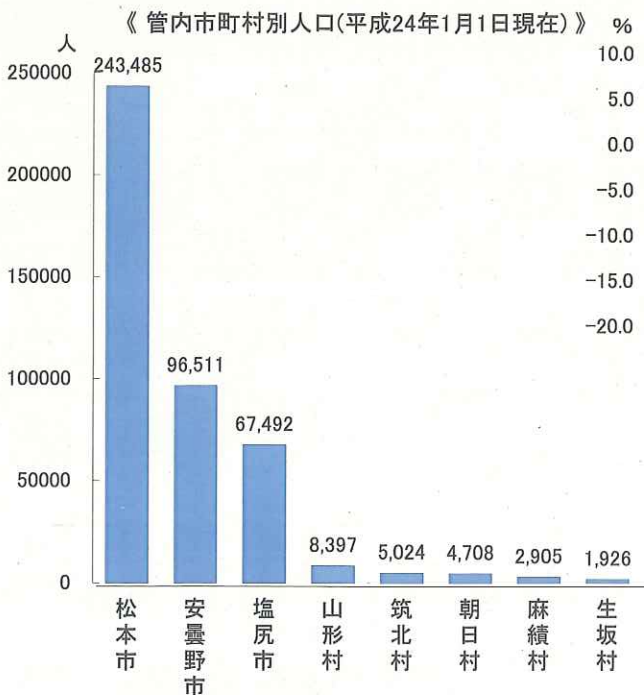


松本地方事務所



人 口

- 松本地域の人口は、平成24年1月1日現在 430,448人で、県総人口2,141,208人の 20.1%を占めている。
- 市村別では、243,485人の松本市から、1,926人の生坂村まで人口の格差が大きく、山形村、安曇野市では人口が増加しているが、東筑摩郡(麻績村、生坂村、筑北村)では減少している。
- 人口推計をみると、平成22年と比較して、15年後の平成37年には約30,900人、7.2%減少し、40万人程度と見込まれているが、県全体より2.7ポイント減少率が下回っている。

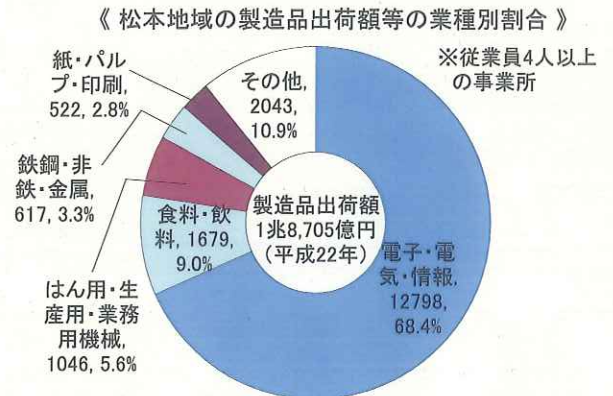


(資料: 毎月人口異動調査、国立社会保障・人口問題研究所推計)

産業

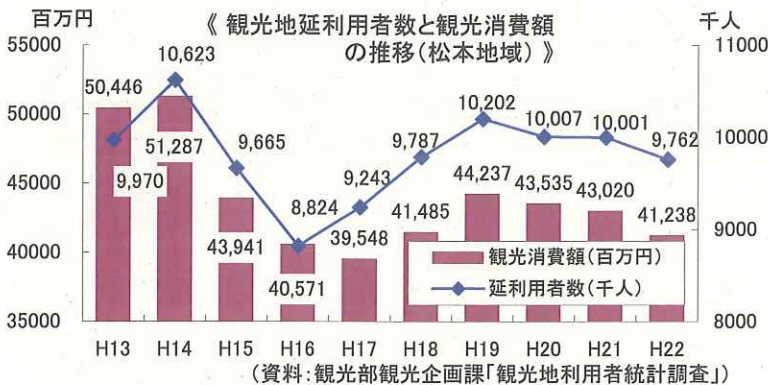
【工業】

- 松本地域は、製造品出荷額等の全県に占める割合が33.7%で10広域圏別で1位である。平成22年は前年と比較して、事業所数、従業者数とも減少したが、製造品出荷額等は増加した。
- 立地している業種は多様だが、製造品出荷額等から見た主力業種はパソコン、電子部品等の電子・電気・情報関連であり、県全体の45.5%と比べて26.5ポイント高く、68.4%を占めている。
- 輸出出荷額等に占める割合は32.1%と県全体の24.3%より7.8ポイント高く、海外市場や為替の動向に左右されやすい特性を持っている。



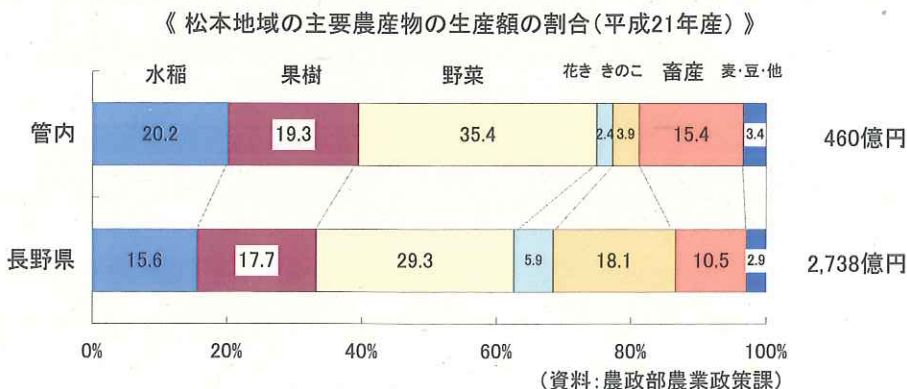
【観光】

- 松本地域には、中部山岳国立公園に代表される豊かな自然、国宝松本城、奈良井宿などの歴史的遺産、上高地、乗鞍高原、安曇野など著名な観光資源や農村景観を有する。
- 平成22年の観光地延利用者数は約976万人、観光消費額は約412億円で、ともに県内10地域中4位であり最近の延利用者数は1,000万人前後で推移している。
- 平成22年の外国人宿泊者数は約4万1千人で県内10地域中4位であり、最近の外国人宿泊者数は約4万人で推移している。



【農業】

- 松本地域の主要農産物は、水稻、果樹、野菜などであり、県全体と比べ水稻、野菜、畜産のウエイトが高い。
- レタス、スイカ、りんご、長芋などは、全国屈指の産地であり、ブランド品として定着している。
- 平成22年の農業産出額は約460億円で県内トップクラスとなっている。



交通

- 管内の交通網は、長野自動車道、国道19号・20号など8本の国道及び中央本線・篠ノ井線・大糸線の3本のJR線等によって、県内外各地に延びている。
- 県営信州まつもと空港は、福岡、札幌便が開設されており、長野県の空の唯一の玄関口となっている。
- 各主要都市から松本への距離と所要時間は、概ね次のとおり

